

● 矯正治療

● 小児矯正

「子供の矯正はいつ始めるのが一番いいのですか？」と聞かれたなら、「その人によって違います。」とお答えします。

成長期の患者さんの場合、

- 永久歯への交換時期
- 不正咬合の種類
- 悪習癖の有無
- 顎の成長の時期等々

人それぞれ全く異なり、それらを総合的に判断して、その方の矯正治療を開始するのに一番良い時期を決定します。

よく「大人になってから治そうね」という話も聞きますが、

『大人になってからではもう治らない、子供のうちにしか改善のできない』 症状もあります。

注意して頂きたいのは、矯正臨床経験の少ない先生（矯正が専門ではなく、得意ではない先生）にはそれを見極める事が非常に難しく、症状を見逃し、状態が悪くなったり、治りにくくなったりしてしまうこともあります。

ぜひ一度、**矯正専門のクリニックを受診し、専門の先生の意見を聞くこと**をお勧めします。

TOP

● 小児矯正(一期治療)

成長とともに状態を悪化させる要因を取り除き、できるだけバランスのとれた成長発育を促すよう、軌道修正をする治療です。マルチブラケット（ボタンと針金の装置）を基本的には使わず、床装置（入れ歯のように取り外しのできる装置）等で歯のはえかわりや顎骨の成長を利用して顎の成長発育と咬み合わせをコントロールする治療です。

子供のうちに矯正治療をするメリットがいくつか考えられます。

※逆に小児期に矯正治療を受けないのはそのメリットを放棄することであると考えてください。

1. 抜歯の可能性が減ります

顎を広げたり顎の成長を促す事により、第二期治療に移行した際、永久歯の抜歯の可能性を減らすことができます。
2. 仕上がりが良くなります

顎の成長のバランスを保つことにより、骨格のバランスがよくなり、プロファイル（横顔）・かみ合わせが美しく・良く仕上がります。
3. 顎の変形を減らす（もしくは無くす）ことができます

小児期に噛み合わせを改善することにより、成人時よりも顎の偏位や変形が改善する可能性が高くなります。
4. 手術の可能性を減らすことができます

噛み合わせを早期に治す事により、顎が噛み合わせのバランスのとれた成長をし、手術の必要性が減少します。
5. ブラケット装置（ボタンと針金の装置）を付ける期間を短くすることができます

小児期に歯ならびを改善することにより、本格矯正が必要となった時、治療期間を短くすることができます。
6. 歯が悪い位置に生えてきて、歯ならびが悪くなることを予防・減少させます

乳歯の抜歯のタイミングを見極めたり、スペースのコントロールをすることにより、歯が悪い方向に生える原因を減少させ、噛み合わせを良い状態に導きます。患者さんによっては二期治療（ボタンと針金の治療）を必要としないレベルまで改善します。
7. 歯、歯周組織への負担を減少させます

早期に歯ならびを改善することにより、良くない歯のすり減りを減少させます。歯ならびからくる歯肉の退縮を改善します。
8. 顎への負担を減少させます

早期に咬みあわせを改善することにより、顎の関節への負担を軽減させます。
9. 歯ならびが安定します

小児期に治療を開始することにより、ベースとなる治療ができているので二期治療で行われる治療の予後が安定します。
10. コンプレックスの解消

早めに目立つ部分の歯ならびを改善してあげることによって、精神的なストレスを解消してあげることができ、自信を待たせることができます。歯ならびが悪くて笑うことのできない患者さんは実はけっこういらっしゃいます。

きれいな(健康的な)笑顔と歯ならびを手に入れましょう。

TOP

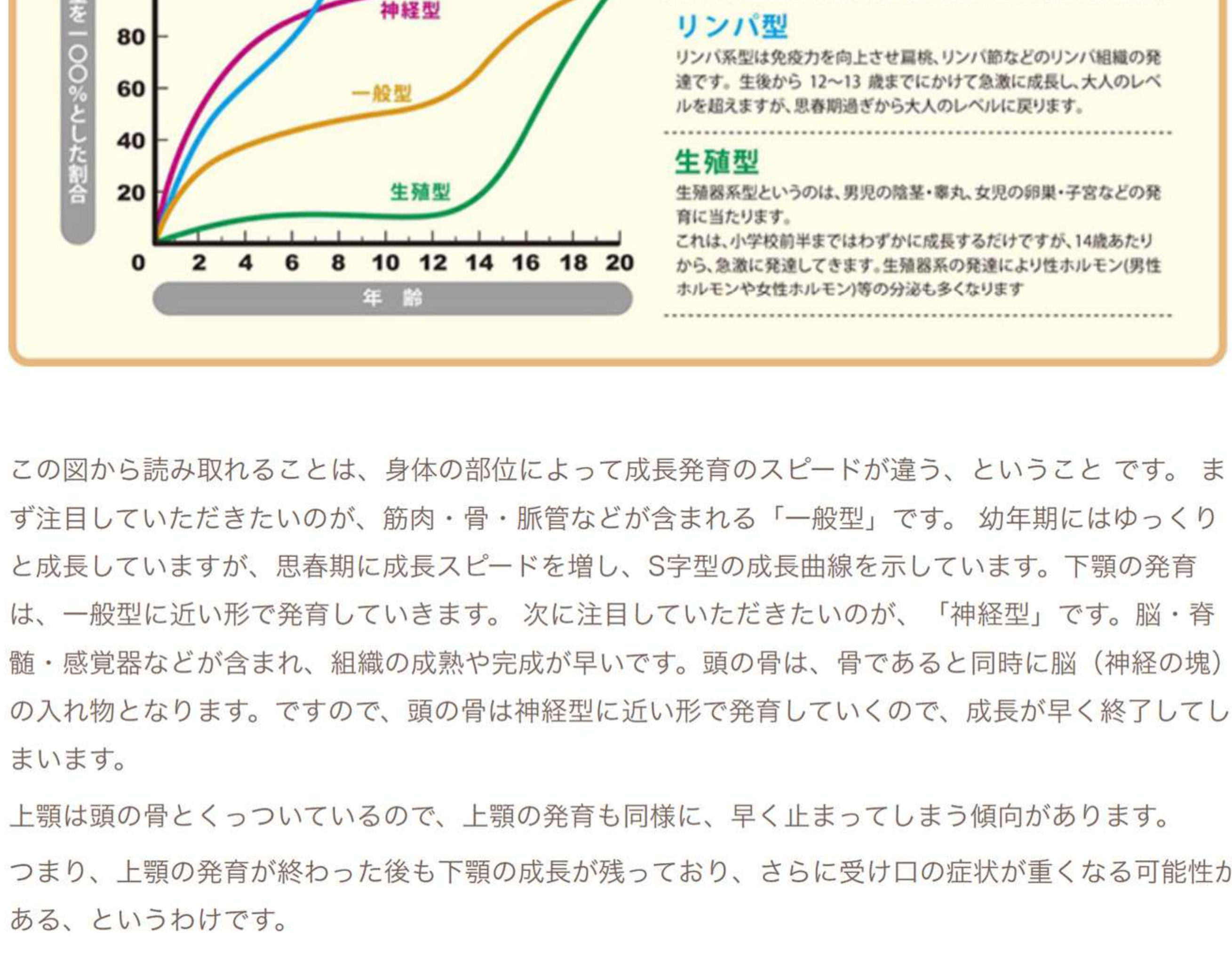
● 子どもの受け口 (反対咬合)

お子さんに受け口の症状がある場合は、早期に治療したほうが良い場合が多いです。

その理由として、以下のことがあげられます。

- ①上下のかみ合わせが逆だと、上顎の成長が抑えられ、下顎はどんどん成長してしまう
- ②上顎の成長発育は早く終わり、下顎の成長は続く

下記の図はスキヤモンが発表した、発育曲線です。



この図から読み取れることは、身体の部位によって成長発育のスピードが違う、ということです。まず注目していただきたいのが、筋肉・骨・脈管などが含まれる「一般型」です。幼年期にはゆっくりと成長していますが、思春期に成長スピードを増し、S字型の成長曲線を示しています。下顎の発育は、一般型に近い形で発育していきます。次に注目していただきたいのが、「神経型」です。脳・脊髄・感覚器などが含まれ、組織の成熟や完成が早いです。頭の骨は、骨であると同時に脳（神経の塊）の入れ物となります。ですので、頭の骨は神経型に近い形で発育していくので、成長が早く終了してしまいます。

上顎は頭の骨とくっついているので、上顎の発育も同様に、早く止まってしまう傾向があります。つまり、上顎の発育が終わった後も下顎の成長が残っており、さらに受け口の症状が重くなる可能性がある、というわけです。

顎の成長発育をコントロールする治療は子供の間にはできず、特に上顎の発育のピークは早いので、治療も早いほうが良い、ということです。（大人になって発育が終わってから顎のバランスを取りたい場合は手術が必要です）

（一口に反対咬合といっても様々なタイプがございますので、すぐに治療開始しない方もいらっしゃいます。詳しくは検査したあとご説明いたします。）

TOP

● 出歯の治療

治療例



特徴

この症例では、歯の大きさに対して、顎が小さいことにより、歯が歯並びに入り切っていません。結果としてでこぼこになったり、はじき出されて出歯になったりしています、

一般的な原因

先天的な要因（顎と歯の大きさのアンバランスなど）、後天的な要因（指しゃぶりなどの習癖）が考えられます。

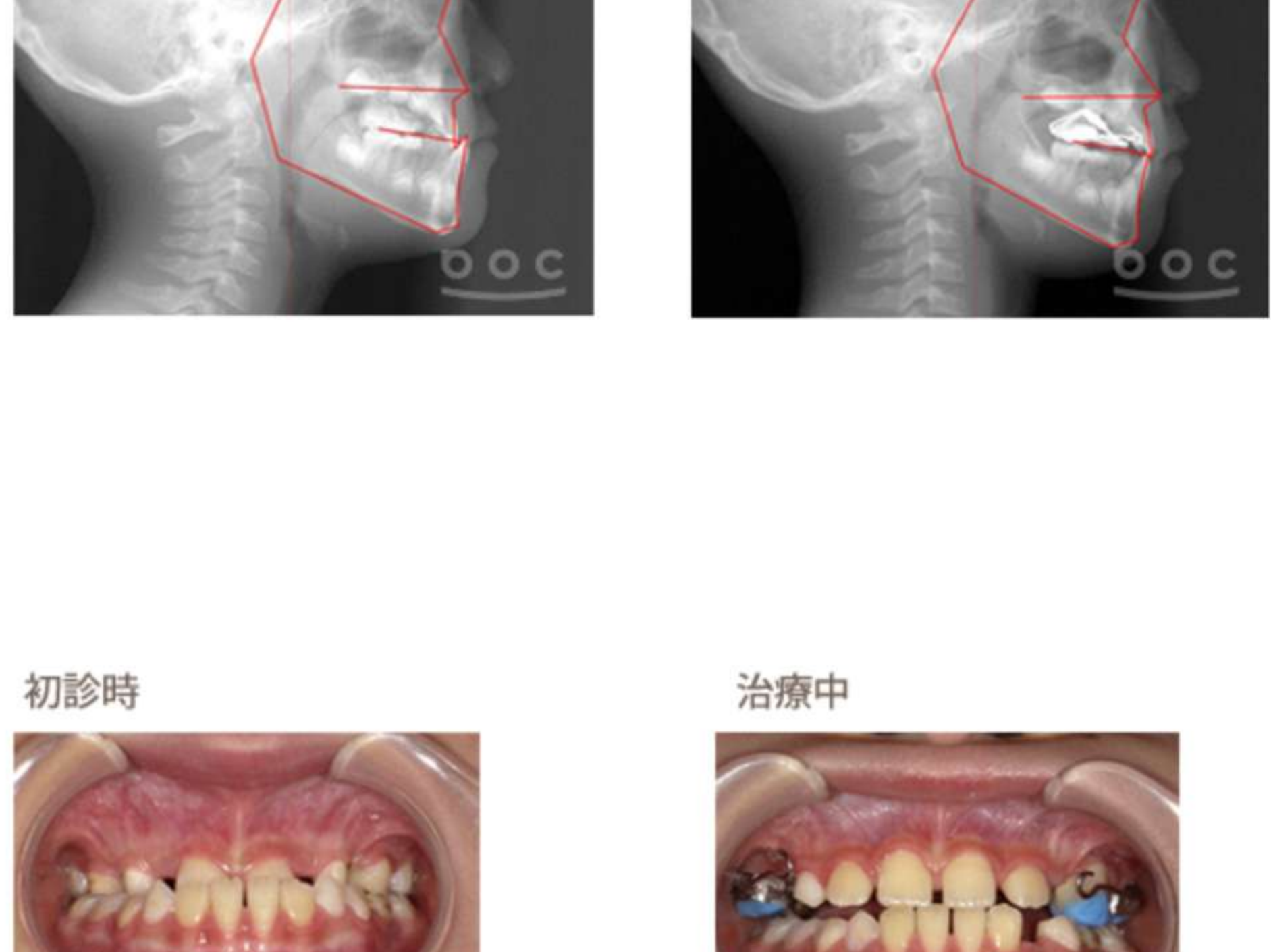
放置しておくとうなるか

このまま成長していても、でこぼこも出歯も治りません。歯並びが治らないだけでなく、**出歯の骨格**になっていく可能性があります。

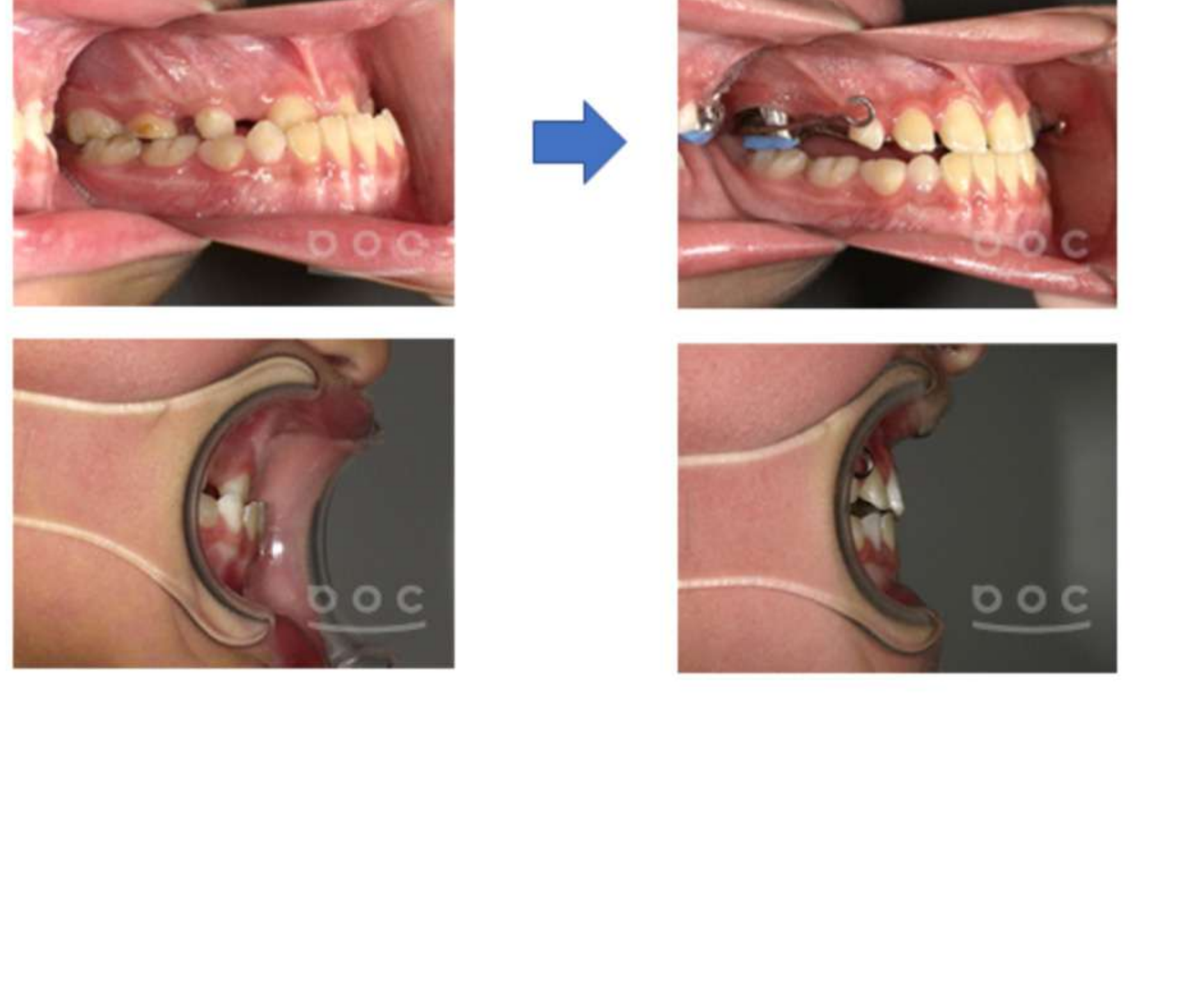
TOP

● 受口の治療

治療例①



治療例②



特徴

どちらの症例も、下顎の骨の過成長および、上顎の骨の劣勢長のため、顎のバランスが悪く、受口になっています。

一般的な原因

反対咬合といっても、様々なタイプがあります。大きく分けて、①骨格性の問題 ②歯性の問題 です。

- ① 骨格性の問題とは、歯ではなく上顎の骨が小さい、あるいは下顎の骨が大きいといった問題を指します。
- ② 歯性の問題とは、骨ではなく歯の位置異常や傾きの悪さの問題などを指します。

反対咬合は、この二つの症例によって分類分けできます。一般的に骨格性の要因が大きい症状は矯正治療の難易度が高く、骨格性の要因が小さい、もしくは無い症状は矯正治療の難易度が低いです。

放置しておくとうなるか

受口は、なるべく早期の治療が必要になります。（詳しくはこちら）一般的に歯性の要因の反対咬合は軽度とされますが、放置しておくとも骨格性のものになってしまうので、なるべく早期の治療が必要になります。

子供のうちにしかできない治療がありますので、ご家族の方が「様子を見よう」「大人になってから治療しよう」と判断される前に一度ご相談ください。

ご家族の方へ
受口は顔貌が特徴的なので、コンプレックスを抱きやすいです。
今治療しないと、治らない症状があります。
そうなる前に、一度ご相談ください。